

特集 キャダバー・サージカル・トレーニングの現状と展望

introduction

キャダバー・サージカル・トレーニング(cadaver surgical training ; CST)は近年、大学組織を中心に少しずつ運用が拡大しつつある。日本整形外科学会学術集会でもたびたびシンポジウムで取り上げられており、注目度を増している。CSTの有用性は言うまでもないが、ラボが日本で普及し始める以前は多くの経済的、時間的コストをかけて海外で行わざるをえず、多くの臨床医が利用することは困難であった。しかし、日本でのCSTの普及がさらに進めば、より多くの臨床医が経済的、時間的コストを最小限にして外科的スキルのさらなる向上が可能となり、ひいては日本全体の医療レベルの向上につながると言っても過言ではない。現在、CSTに直接携わっておられる先生にラボの導入と運用の具体的な方法やピットフォールをご紹介していただくことによって、導入を検討している先生にお役立ていただくことを目的に今回の特集を行った。

CSTをめぐる海外および国内の情勢、国内における整形外科以外の学会における動向、整形外科における器官ごとの具体的な運用方法を諸先生にわかりやすく解説していただいた。CSTに関する情報を網羅的に収載した、今までにない大変ユニークな特集号が完成したと自負している。ラボを検討している先生は本書を羅針盤に、あるいは各執筆者に直接お問い合わせいただきながら、導入と運用を目指していただきたいと考えている。筆者は今回、分担執筆をしていただいた千葉大学の鈴木崇根先生、松浦佑介先生とともにCSTのワークショップを長年行ってきたが、参加者の目の輝きとラボの熱気が忘れられない。その経験が参加者の血となり、肉となることを確信していた。日本中にCSTが普及することによって多くの臨床医の先生、特に経験の少ない若い先生が自信をもって手術に臨めるようになることを切に願っている。結果、日本の医療レベルが引き上げられ、その利益を患者さんが享受することを願ってやまない。

流山中央病院整形外科

國吉一樹